

東部の指導だより

東部教育事務所
学校教育係発行 第14号
平成28年7月5日

これからの教育 これからの教師

東部教育事務所長 吉田 和夫

今の小学生が社会に出る頃、彼らや彼女らの6～7割は、今はまだない仕事に就くだろうと言われている。そして、今後10～20年の間に、今ある仕事の50%は自動化され、決して少ない割合の職業がなくなっているだろうとも指摘されている。

これからの時代を生き抜くには、これまで以上に変化に対応できる力や積極的に変化を作り出す力が必要であろう。解き方があらかじめ定まった問題を効率よく解ける力だけでは不十分である。答えが幾つもあるような問題に対して、いろいろな人とかかわりながら、よりよい答えを見つけられる力も必要である。

文科省では、2030年の社会を見据えて次の学習指導要領の検討を行い、その基本となる考えを「論点整理」としてまとめている。基本的には、現行の学習指導要領の言語活動や体験活動の重視等については、その成果を引き継ぎ、更に充実を図ることが重要であるとしている。一方、子どもが自らの力を育み、自らの能力を引き出し、主体的に判断し行動するまでには必ずしも十分達しているとは言えない状況であるにとらえている。そして、教育方法の改善としてアクティブラーニングが取り上げられている。これについては、現行の学習指導要領に沿った授業（「はばたくぐんまの指導プラン」で示した授業）をしている先生にとっては、それほど大きく変わるものではないかと思う。

これから、道徳の教科化、小学校の英語科など新たな内容や教育に対応していかねばならないことも多く、教員自身が今後の変化に主体的に対応する力が必要となる。

未来予測によると、これからも教師という職業はなくなるはない。ただし、求められるのは「知を作り出す子どもを育てられる教師」であり、「知を教える教師」は必要なくなるようである。

「平成28年度 第1回小・中学校初任者研修」報告 ＜東部教育事務所担当＞

5月31日(火)、第1回東部教育事務所担当の小・中学校初任者研修を館林市で実施しました。今年度は、

①指導力の向上、②地域教材の有効活用や自校での体験活動への生かし方、③初任者同士の人間関係づくり、の3点をテーマに研修を計画しました。

実施後の初任者のまとめには、皆さんに是非知っていただきたい大切な気づきがたくさんありますので、紹介いたします。

開催地 館林市教育委員会あいさつ
教育長 吉間常明

【初任者の気付き】

それぞれの得意技や工夫の仕方が教師の味になるという話を聞いて、自分の持ち味を一年間で分析し、確立していくこと、教師として当たり前のことを身に付けていくことが教員人生で重要だと思いました。



所長講話「初任者に期待すること」

東部教育事務所長 吉田和夫



【初任者の気付き】

・常に学び続ける教師でなければ、その時代に必要な教育をしていくことができないのではないかと思います。「教師は子どもの人生を背負っている」という自覚をもち、彼らのために情熱をもって謙虚に学び続けなければならないのだと思いました。

- ・教師が威圧して叱ると、子どもはまねをして力でおさえることを学ぶという話がありました。子どもにとってよいお手本となる大人になるためにも、日頃からよい行いを自ら実践していきたいです。
- ・自分の教え方、指導の仕方を疑い、謙虚でなければと思いました。
- ・群馬の教育で求められていることを把握するために、「はばたく群馬の指導プラン」をとおして、授業の基本をしっかりと学ぼうと思いました。



講義等の様子

講義①「館林市の文化と歴史について」



湿地で水に恵まれた古代の館林市から、多くの産業で栄えた現代の館林市まで、町の特徴や歴史的建造物、偉人等について、多くの資料を提示しながら紹介していただきました。

講義②「つつじが岡公園について」



譜代大名の榊原忠次が移植したつつじを、城主が見物したことが公園のはじまりでした。その後400年間、多くの地域の人々が守ってきたことで、世界に誇るつつじが岡公園があるということです。

グループ活動① 班別計画



午後のグループ活動「歴史・文化発見ウォーキング」に向けて、班別活動の計画を立てました。各班の係分担やチェックポイントの場所、活動のルール等を確認し、どの施設をどの順番で巡るかを話し合いました。昼食・休憩中にも熱心に話し合う班が幾つもありました。

【初任者の気付き】

2 講義①②について(自校での地域教材の有効活用に関連付けて気付いたこと)

- ・ 将来地元に戻りたいと思わせるような教育が求められています。小学生のうちにたくさん地域教材に触れさせ、体験させることが大事になってくるのではないかと考えました。その際に、教師だけの力で学習させるのではなく、地域ボランティアの方や行政の力を借りることで、よりよい学びが実現できると考えました。
- ・ つつじが岡公園が400年続いている裏には、地域の人々の、必死に守ろうとした努力があったというお話を聞き、古くから伝わる伝統を地域教材として扱う際は、守ってきた人々の気持ちにも気付くべきだと思いました。
- ・ 今、自分達が住んでいる郷土の偉人を知ること等、学校の近くにある教材を生かすことで、自分もその一員なのだという自覚につなげ、郷土愛を育てていきたいと思いました。

3 グループ活動「歴史・文化発見ウォーキング」(このような活動を実施する際に大切なこと)

- ・ 事前の下見などで、危険箇所を把握し、適切にチェックポイントの場所などを設置することで、子どもたちを安全に、安心して活動できるようにすることが大切です。また、体験活動をとおして身に付けさせたい能力や気付いてほしい事柄を明確にして取り組むことも大切だと思いました。
- ・ 校外学習をすると、普段会わないような地域の方にたくさん会います。そういった方に教師自ら挨拶することで、子どもたちも積極的に挨拶をし、地域の方と交流できると思いました。
- ・ 今回、多くの指導主事がチェックポイントにいたので安心しました。教師の確保と配置、さらにボランティアの協力を募ることも安全確保に必要なことだと思います。

館林のいいところをたくさん見る中で、日頃学校では気付かないことに気付きましたね！



グループ活動の様子

「歴史・文化発見ウォーキング」



向井千秋記念
子ども科学館で
実際に触って試
してみました。

武家屋
敷を再現し
た武鷹館
では、ボラ
ンティアさん
が熱心に解
説してくれ
ました。



同じ悩みや不安を初
任者がもっていたことで
話が弾み、情報交換す
る中で教師のやりがい
も共有できました！

閉会行事



事前に確認したねらいに沿って個で振り
返し、次に班ごとに発表し合いました。
その後、数人に発表してもらい、学んだこと
を共有しました。3つのねらいについて、多く
の感想が出されました。

【初任者の気付き】

3 グループ活動「歴史・文化発見ウォーキング」 (このような活動を実施する際に大切なこと)

・教員が、その地域教材について知識を深め、
子どもたちに紹介することで、子どもたちの
取組への意欲は、全く違うものになってくる
と感じました。まずは、教師が学ぶことこそ、
大切になると感じました。

4 グループ活動「歴史・文化発見ウォーキング」 (初任者同士のコミュニケーションで感じたこと)

- ・グループ活動が終わる頃になると、3時間前
に初めて話したとは思えないくらい、様々な
話をすることができました。思い返してみ
ると、終始、笑顔で活動できていたので、「笑
顔」はコミュニケーションを取る上でとても重
要な役割を果たすと知ることができました。
- ・役割分担が決まっていたので、代表を中心
として、それぞれの分担について意見を述
べることで、スムーズに話し合いをすること
ができました。

【初任者の気付き】

・班を組むまではほとんど話したことがないメ
ンバーでしたが、班活動が終わった後は、
「また組みたい」と思えるような関係を築くこ
とができました。その理由は2つあったと思
います。

1つ目は、初任者としての悩みや不安、ま
た教師になってよかったという共通点があ
ったため、より話しやすくなったからです。

2つ目は、班で1つのことをやりきったとい
う達成感が得られたからです。

この経験を生かし、子どもたちがよりよい
コミュニケーションをとれるような体験学習
をさせたいと思いました。

【担当の振り返り】

板倉町周辺を会場とした昨年度までの研修から大
きな変更となりましたが、初任者の先生方が予想以上に
積極的に取り組んでくれました。教育長さんをはじめ、
館林教育委員会の皆様に心から感謝申し上げます。